

地域の自立的発展のために求められる地域版 M B A (ビジネススクール) の創設

1 . 各地で設立が続く M B A コース

企業経営のプロやベンチャー起業家を養成するいわゆる M B A (経営学修士) は、米国の大学が有名であるが、近年は日本の大学においても、慶応義塾大学、一橋大学、龍谷大学など首都圏・関西圏を中心に 30 校以上で設立されている。近時は、それ以外の地域でも九州大学、長崎大学などに M B A コースが設置されたほか、小樽商科大学、香川大学では、M B A コースの設置が進められている。M B A コースは、米国型の M B A を目指す慶応義塾大学や、金融系の一橋大学、早稲田大学、技術系の M B A (M O T) である東北大学、芝浦工業大学、地域の独自性を加味した地域版 M B A に分類することができる。

2 . 地域版 M B A コースの必要性

M B A コースは本来、企業の経営のプロを養成することが目的であるが、近時は、自治体、N P O をはじめ様々な経営主体の視点から、新しい役割が求められている。例えば、地域での起業を支援するための人材供給や、N P O など地域の新たな担い手の育成である。地方自治体に関していえば、最近、注目をあびている P F I (民間の資金を活用した社会資本整備) においては、プロジェクト・ファイナンスなどの新しい金融手法が使われており、従来の公共事業のやり方とは全く異なる自治体の経営が必要となる。また、最近の地域振興策の大きな柱である産業クラスター構想では、地域の大学を活用して地元企業との共同研究や、ベンチャー企業の設立が進められている。こうした政策においても新たな経営感覚を持つ人材の供給が求められている。

国立大学の場合、独立行政法人化 (国立大学法人化) の流れの中で、大学間の競争に勝ち残るために M B A コースを作って、その存在をアピールする意図もある。地方圏の大学の場合、首都圏の大学と同様の M B A コースでは、規模などの面で劣るため、アジアビジネスや地域の社会的ニーズへの対応など、地域の特徴を活かした地元密着型の M B A コース (地域版 M B A) が作られている。しかしながら、地域版 M B A コースには、大学間の競争に打ち勝つためだけでなく、行政、企業、N P O などにおいて、新たな経営感覚を有する地域振興の担い手を育成するという積極的な役割が求められるのである。例えば、地方圏においてベンチャー企業を設立しようとしても、地方圏にはベンチャーキャピタルが少ない、マネジメントをする人材の確保が難しいなど、大都市圏とは違う大きな問題点がある。地域版 M B A コースにおいては、従来の経営手法の習得をベースに、その地域でのマネジメントを加味した内容とすることで、こうした課題の克服へと繋げるのである。

3. 四国を取り巻く状況

四国地域を取り巻く環境を見てみると、他の地方圏と同様に厳しい経済状況が続いている。工場立地に関しては、全国と同様に工場立地の減少に歯止めがかかっていない、四国以外の地域からの工場進出が少ない、外資系企業の進出も近年はほとんどない、という状況がみられる。こうした厳しい条件を克服するためには、地域自立型の発展戦略をデザインすることが不可欠である。こうした発展戦略を実現していくためには、産業クラスターの形成、産学連携による新産業育成などの分野で新たな取り組みが求められ、長期的視点から、こうした分野の担い手となる人材の育成が必要である。現在までのところ大学のカリキュラムの中にも、地域の自立的発展のメカニズムを明らかにするものは少ない。そのため、自立的発展のための活動は、手探りの状態で進められているのが現状である。大学の中にこうしたコースができれば、地域の自立的発展へ向けての端緒になると思われる。

香川大学は2003年7月に文部科学省に対して、専門職大学院「地域マネジメント研究科」(ビジネススクール)を申請し、11月に認可された。地域に密着したビジネスリーダーやベンチャー起業家、行政担当者を育成することが狙いとなっている。香川大学地域マネジメント研究科においては、地域の自立的発展のメカニズムを体系的・戦略的に解き明かす講座の設置が検討されており、当ビジネススクールの卒業生は、将来、地域の自立的発展を担う予備軍となることが期待される。

4. 地域版MBAコースに対する提言

地域版MBAコースを軌道に乗せるには、以下の点を、今後、検討する必要があると思われる。

- (1) プログラムの充実と、ポジショニングの明確化
- (2) 学内の体制整備
- (3) 地元企業との連携
- (4) 自治体等との連携
- (5) 外部専門機関の活用
- (6) 認証の取得

今までの大学は、資金の獲得にしても、研究に関しても中央のみを見るが多かったが、今後は地域との密接な連携が必要になってくる。地域版MBAコースは運営上の観点からみると、地域へのこだわりの部分と地域を越えた外部のリソースの活用という相反する要素を、上手く組み合わせることが重要である。今後、地域版MBAコースは地域における新規事業育成、自立的で競争力のある地域経済の実現に向けて、重要な鍵を握るものと思われる。

< 本件に関する、御問合せ >

日本政策投資銀行四国支店 企画調査課 野田 087-861-6676